

## 平成30年度 島根県立隠岐島前高等学校 卒業証書授与式 校長式辞

弥生三月、ここ島前に春が巡り、六十五名が巣立ちの時を迎えました。本日この佳き日、「隠岐島前高等学校の魅力化と永遠(とわ)の発展の会」代表 升谷 健 西ノ島町長様をはじめ、ご来賓の皆様のご臨席のもと、平成三十年度第五十四回卒業証書授与式を盛大に挙げていきますことは、卒業生はもとより、私たち教職員及び在校生にとって大きな喜びであります。高所からではありますが、心からお礼申し上げます。

保護者の皆様、誕生の日から早十八年、皆様の腕の中から巣立つ日を迎えたお子様の姿に、感慨一入のことと存じます。ご覧下さい。お子様は立派に成長し、逞しい大人へと進化しております。成長と卒業、心よりお祝い申し上げます。

島親及び地域の皆様、卒業生がこけて晴れやかに凛とした姿で巣立っていくことができるのも、彼らをここまで慈しみ支えてくださいました皆さまのお陰であり、心より感謝するとともに、お礼申し上げます。ありがとうございました。

たいま卒業証書を授与した六十五名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう。教職員一同、心より祝福いたします。

この二年間、本校で掲げたスローガンは、「前傾姿勢」と「SINKA」でした。皆さんは見事に応えてくれたことを嬉しく思っています。全国的に注目される本校には、多くの視察や取材があります。また、国内外問わず、発表や体験の機会が多くなりました。そのすべてで、失敗を恐れずに前傾姿勢で取り組む皆さんの勇姿は確かに目に焼き付いています。関係した様々な方から「島前の生徒は物怖しない、立派な挑戦者だ」と、事後に高い評価を受けたのを誇らしく思い出します。めざしたSINKAの六種類、新しいことに挑戦する「新化」、多様性を受け入れ親む「親化」、探究活動を通して深く掘り下げていく「深化」、多様な経験を糧に成長し続ける「進化」を遂げ、真の価値、「真価」を高めた皆さんは、今や神がかった存在へと「神化」しています。その証書として渡すのがこの卒業証書です。これは「SINKA証明書」でもあります。

ここで少し心を落ち着かせ、静かに振り返ってみましょう。この日を迎え、今、どのような光景や思いが脳裏に去来していますか。きっと誰もが、島前に吹風とともに印象深い場面が甦ってくるでしょう。それらすべてが「経験」という名の財産であり、かけがえのない貴重なものとして、皆さんのこれからを確かに支えてくれるはずですよ。

四月の「歩こう会」、入学当初は海士町、二年時は知夫村、三年では西ノ島町、三年間で島前地域を歩き尽くしました。島内生と島外生が打ち解け合い、グループで探究活動を行ったあの日、多文化協働のもとで地域をフィールドに探究する力をつける、島前高校ならではの素敵な行事の一つでした。二年次の「シンガポール研修」、不慣れた外国での生活体験や現地大学生との交流、英語でのプレゼンテーションなど、高い壁を一つずつ越えていく、思い出深い、有意義な研修となったと聞いています。離島唯一の文部科学省SGH事業委託を受けて四年目の今、ブータンやロシア、エストニア等の海外交流を含め、皆さんが失敗を恐れずに新しい挑戦をしてくれたおかげで、後輩たちに道を開くことができたのです。皆さんの三年間はSGHの事業期間と重なります。あなた方の勇気と行動力、実践力あってこそ素晴らしい成果でした。三年次の「学園祭」、平成の最後にあたり、伝統継承と新しい次代を創ることをコンセプトに、生徒会が中心となって企画し、新しい学園祭名の提案にも挑戦してくれました。これもまた、一種の挑戦、探究活動ではなかったかと思っています。PTAや卒業生会の方々からも高評価を受け、次年度からの学園祭はきっと「碧燎祭」の名を冠して開催できるでしょう。入学時からの「夢探究」や「地域生活学」「地域地球学」などを通して、しっかりと鍛えてきた探究スキルや探究スピリットが、「学園祭の形で具現化した」、他校には真似のできない、本校ならではの誇らしい行事でした。

「地域に愛される、愛に満ちた学校でありたい。」昨年度から本年度にかけて、宣言の形で伝え続けました。学習環境を整え、ふるまいを正す。あれほど素晴らしい学びと育ちができるのも、地域の協力と恩恵を受けているからこそ、今一度その原点に立ち戻り、本校ならではの教育活動を一層推進していく覚悟を、教職員、生徒ともに共有しました。皆さんの理解と協力が得られたおかげで、本校は地域に根差し、地域と共に歩む学校であることの喜びと誇りを再認識することができたと思います。皆さんの協元に深く感謝します。

さあ、思い出を振り返るのはここまで、巣立ち、旅立つ時が近づいています。これから進む社会は、変化、変動、変革の著しいものとなるでしょう。「十年一昔」では到底済まない、一年一年そのものが変わり続け、世の常識がすぐに変わってしまう、激しい変化に戸惑うことも多いと思われまふ。AI(人工知能)が凌駕し、人間の尊厳が脅かされることも増えるでしょう。そんな時、本校で培った多文化協働力や探究実践力、グローバルセンスを存分に発揮し、焦らず、慌てず、挫けずに、地に足の着いた実践を心掛けてください。本校で確実に学びを重ね、成長を遂げた経験者である皆さんなら大丈夫です。いや、皆さんこそ新しい変動社会が求める人材であり、どんな社会をも見事に生き抜く実践者となってくれること信じています。

ここで、皆さんに三つ、お願いしたいことがあります。一つは、これから「学び続けてほしい」ということです。「学んだことは誰も奪い取れない」という言葉があります。社会や世界が変わるからこそ、常に学び続け、真理を探究し、理想を追求し、進取の気象を失わずに、飽くなき自己変革に努めてください。校訓「真理・理想・進取」、卒業しても忘れずに大切に掲げ続け、学びの継続をお願いしたいのです。二つ目は、「働く」を「傍(はた)を楽(ら)くにする」とどらえ、しっかりと「傍(はた)楽(ら)く入(い)りてほしい」ということです。地域との協働の学びでわかっているのですが、自分中心にとらえるのではなく、自己の働きが周囲に好影響をもたらす、わかりやすく言えば「貢献」できる働きに努めてほしいのです。「思い遣り」と「おかげさま」、他者に配慮できる人であり続けてください。三つ目は、「志の実現」についてです。四月からは、各々が新しい学びの中で知識や技能を更に修得したり、実社会で自身の持つ知識や技能を活用したりしていくこととなります。高校時代に抱き、育んできた夢や希望、目標がぜひとも実現することを、そしてそれらを、いつの日か強い信念と飽くなき継続に裏打ちされた「志」に進化させて、それぞれの道で活躍されることを願っています。同時に、優しさに包まれたここ島前で生活の中で抱いた、「誰かのためになりたい」「地域の役に立ちたい」「地域に恩返しをしたい」といった、健気で純粋な思いを、いつまでも持ち続けてほしいと願っています。そして、できることなら多くの者たちがいつの日かこの島前の地に「志を果たし」に、或いは「志を果たして」帰られんことを心から願っています。「志を果たしてくれること」、これが三つ目の願いです。

私自身、この島前地域を取り巻く海について「海は隔てるものではなく、つなぐもの」と考えています。日本中どこへ行こうとも、また世界中どこへ行こうとも、この海によって、またかけがえのない思い出によって、あなた方一人ひとりと島前はつながっています。もちろん、昨年帰国したグリーンランドからの留学生、ニッキーとも、また先だって帰国した、コスタリカのエイタン、ミャンマーのアーチェンナー、ロシアのカーチャともつながっています。島前高校での学びに誇りを持ち、自ら大きな帆を張って、人生の荒海に漕ぎ出でてください、勇気と誇りをもって。

「島前の天地(あめつち)よ、島前の人々よ、どうか前途ある若者たちに力を与え給え、勇気を与え給え。」 強(つよ)く祈(いの)ります。

終わりに、三十四年の教員生活を送る中で、饒(はなむけ)として常に贈り続けている自作の歌を、卒業する皆さんに贈ります。

友(とも)があり 師(し)があり そして我がある 活(い)かす活(い)かされ 人は生きゆく 出会(あ)った友人(とも)、先生(せんせい)、関わ(か)っていたたいたい全ての方(かた)々に感謝(かんしゃ)を、そして「活(い)かす」人(ひと)になってください。

以上、卒業する六十五名のたいなる未来(あした)に幸(さいわい)あれと祈(いの)り、式辞(しきじ)といたします。